

良識の声が 産業廃棄物焼却施設の誘致計画を撤回させる！

三光株式会社の産業廃棄物焼却施設誘致計画

矢田町長が断念することを表明

産業廃棄物焼却施設の誘致に反対する決議

私たちの日南町は、日野川源流と中国山地に連なる山々の緑をはじめとした豊かな自然環境の下に、豊かな風土や歴史・文化を育み、自然・人・産業が調和した町として着実に発展してきた。

そのようななか、日南町は地域熱活用事業の核施設として、産業廃棄物焼却施設の誘致を進められているが、これから先も、本町は将来にわたって、これまで育んできた風土を大切に、自然と調和した町づくりを進めることが肝要と考える。

よって、本議会は、産業廃棄物焼却施設の設置のため町有地の売り払い、又は貸与を認めないとともに、町内への産業廃棄物焼却施設の設置に反対し、誘致計画の撤回を求めるものである。

以上、決議する。

平成20年12月19日

日南町議会



事業中止までの経過

日南町議会の12月定例会は、12月19日に「産業廃棄物焼却施設の誘致に反対する決議」を全員一致で議決して閉会しました。議決後ただちに矢田町長は、この計画を断念することを正式に表明しました。

日南町議会史上で、町当局の事業計画に反対し、撤回を求める決議を議員全員で議決した前例はほとんどなく、今回の産業廃棄物焼却施設の誘致計画が、いかに住民の願いや要望とかけ離れたものであったかを物語る結末となりました。

- ▼今年の6月定例会に「バイオオマス等未活用エネルギー調査事業」の補正予算が提案され、三光(株)が生山の残土処分場に産業廃棄物焼却施設を建設する計画であることが明かされる。
- ▼8月1日、日南町議会議員全員で三光(株)の焼却処分場を視察・調査する。90トン/1日(24時間稼働)の施設を計画との会社説明を受ける。
- ▼8月27日、生山・霞の住民を対象に事業の説明会が開かれる。
- ▼9月定例会の一般質問で、久代、古都両議員が、産業廃棄物焼却施設の問題点を指摘する。
- ▼10月4日、生山自治会が「産業廃棄物焼却施設の誘致計画に反対の決議」を行い、住民運動が始まる。
- ▼11月22日、日野上まちづくり懇談会で住民から「なぜいま産廃施設なのか理解できない」「行政の説明責任が果たされていない」「計画の中止を」の発言が相次ぎ、矢田町長は、「住民合意と、議会の意向を尊重する」と言明。
- ▼12月10日、三光(株)が、急激な景気後退を理由に「建設計画を見送りたい」と、日南町に申し入れる。
- ▼12月11日、日南町議会定例会初日に質問に立った4名の議員に矢田町長は、「三光株式会社は、計画を見合わせるのとことだが、日南町としては、計画を断念してはいない」との答弁に終始する。
- ▼12月19日、議会本会議で、「産業廃棄物焼却施設の誘致に反対する決議」を決議し、議決。
- ▼議決後すぐに矢田町長は、計画を取り止めることを正式に表明する。